

2010年度 第39回長野県登山大会講評

審査員長 酒井 知之

審査員

池迫 一行 福島 伸一 小西 徹
重田 肇 森下 暁 遠藤 正孝
西野 祐司 丸山 真明 小沼 拓也
松田 大 宮島 幸一 大西 英樹
西牧 岳哉 浮須 由実 小林 國弘
福澤 桂

【はじめに】

今年度県登山大会は飯縄山一帯で実施しました。飯縄山は、古くは平安時代より修験道の道場として知られた歴史ある山であり、現在では、斑尾山・妙高山・黒姫山・戸隠連峰とともに北信五岳の一座として北信地区の人々に親しまれ、長野市近隣の人々にとっては故郷の山としてたいへん馴染みが深い山です。

今回の大会は、昨年度同様、雨天のために炊事審査がテント内での実施となりましたが、その他の審査はおおむね天候にも恵まれ、選手の皆さんには飯縄・戸隠高原の初夏を満喫してもらえたのではないかと思います。

さて、今年度の県大会での講評をとりまとめましたのでお届けします。講評のとりまとめが遅れましたこと、お詫びいたします。なお、この講評の取り扱いにつきましては、審査基準とは別な性格のものであることを改めて確認しておきたいと思います。審査の基準となるのは、「全国高等学校登山大会審査基準」であり、また、審査に関わるものとして、高体連登山専門部が大会実施に向けて発行する登山部報や事前研究資料があります。これらはいずれも、大会に先立って登山専門部のホームページに掲載されており、この他に概念図や比高断面図の模範例とともに各参加校に事前に郵送されています。

この講評は、あくまでも各審査員が審査を通じて感じたこと、気になったことをコメントとして取りまとめたものとして、大会の反省や今後の山行に役立ててください。

1. 体力点 (28点)

①審査項目

総合的体力点(18点) 規定重量 男子60kg (ゴール時での不足重量をkgに切り上げ、1kgにつき2点減点)
女子48kg (ゴール時での不足重量をkgに切り上げ、1kgにつき2点減点)
規定時間 男子8時間 (規定時間より1分遅れる毎に0.3点減点)
女子8時間30分 (規定時間より1分遅れる毎に0.3点減点)

特区间体力点(10点)

規定時間 男子17分 (規定時間より1分遅れる毎に0.5点減点)
女子22分 (規定時間より1分遅れる毎に0.5点減点)

必携装備(1品目不携行につき体力点より1点減点 4項目×-1点)

ア) シュラフ イ) テント(本体・ポール) ウ) コッヘル エ) 食糧(2日目夕食・3日目朝食)

②講評

今大会は幕営地を移動する方式をとりました。したがって、2日目の審査では幕営地の移動にふさわしい装備の携行を求め、それに見合うだけの規定重量も設けました。全体の体力についてはすべてのチームが規定時間内にゴールができ、基礎的な体力はおおむね良好であったと思います。登山の魅力や楽しみ方はいろいろありますが、基本的な体力があってこそ楽しめるものです。日頃の部活動にぜひ体力トレーニングを組み入れてください。体力をつけることによって山行に余裕ができ、より登山を楽しむことができます。

2. 歩行 (15点=5地点×3項目1点ずつ 評価は0.5刻み)

①審査地点・審査項目

A地点 特区间スタート手前の急登1500m付近・・・歩行バランス、チームワーク、帽子
B地点 霊仙寺山分岐から飯縄山頂へ向かう稜線・・・歩行バランス、チームワーク、長袖シャツ
C地点 飯縄山頂から瑠璃山方面へ下る急傾斜1800m付近・・・歩行バランス、チームワーク、帽子

D地点 瑪瑙山頂からの下りのゲレンデ内・・・・・・・・・・歩行バランス、チームワーク、パッキング状態

E地点 高デッキ山西方向ルート上のT字路手前1520m付近・・歩行バランス、チームワーク、靴

②講評

歩行バランスには、走らないことや、適度な歩幅、スリッパ・転倒も含めて審査しました。歩行バランスについては、登りのオーバーペースから、後半にふらふらしているチームがありました。ペース配分を考えて、安定した歩行ができるようにしましょう。下りでも疲労からバランスを崩すことがないようにしてください。

チームワークでは多くのチームが隊列を整えて歩いていましたが、隊列が乱れてメンバー間が離れていたチームが一部見られました。メンバーが離れることなく、常に一緒に行動してください。登山ではチームと一緒に歩くことが基本です。

服装については、帽子・長袖シャツ・靴（紐や、くるぶしまで高さがあるか）を見ました。安全を考慮した、登山に適した服装をしてください。汗への対策と思われるが、タオルを首からぶら下げている人がいました。杖等に引っかかることも考えられますので、どうしても必要な場合はタオルの端を襟の中に入れてください。

歩行中のパッキングについては、テントマットやポール等をザックの側面や雨蓋の下に付けた人が多く見られました。これも周囲に引っかかってバランスを崩す原因となりかねません。すべてをザック内に収納できるよう上手なパッキングを心がけてください。

3. 地形（15点＝10地点×1.5点）

①審査項目

地形やあたりの状況から現在位置を正確に読みとることができるか。

②講評

多くのチームが地形図をよく読めていました。これからもその読図力を普段の山行の中で活かして下さい。

今回得点が伸びなかったチームは、普段の山行の際に周囲の状況を常に地図と照らし合わせながら歩くことを実践してみてください。次第に地形図を読めるようになると思います。

沢や小ピーク、屈曲点は正確にその位置を地図に落とせるようにしましょう。記入にあたっては明確な線を書いてください。判定しづらい線は減点になる可能性があります。

4. 装備（10点）

（1）個人装備（6点＝6項目×1点）

①審査項目

ア) コンパス イ) 地図（カラーコピー可。ただし2.5万図も共同装備として1組持っていること）

ウ) 非常食 エ) ナイフ オ) 雨具 カ) ヘッドランプ

②講評

山行の際に携行が必要な装備のうち、上記の6品を審査項目としました。共同装備も含めて審査項目の装備については多くのチームで携行できていました。ただ、審査項目ではありませんでしたが、防水対策がしっかりとできていないところがありました。シュラフや衣類、ロールペーパー等はビニール袋に入れるなど、きちんと防水対策を施しましょう。

（2）共同装備（4点＝4項目×1点）

①審査項目

ア) コンロ イ) 医薬品（湿布薬と体温計） ウ) ラジオ エ) 修理具

②講評

団体装備では、医薬品の中身が把握できていない（体温計を携行しているかどうかわからないなど）チームがありました。山行前に医薬品入れの中の薬品の数量や使用期限、状態をきちんと確認しておきましょう。

5. 生活技術（10点）

（1）テント設営（5点＝5項目×1点 評価は0.5刻み）

①審査項目（テント設営は10分間）

ア) 手際の良さ（チームワーク、手順）

イ) ザック雨ぶた、袋物の処理、伸ばしたポールの処理（地面に置かない）

- ウ) ペグ・張り綱の適切さ (ペグの本数・位置・角度、フライとの間隔、張り綱の張り具合)
- エ) 軍手の使用 (ペグを持つ手)
- オ) テント内の整理 (テントマット、ザックの整理、入り口を閉じる)

②講評

上記の各項目についてはおおむね良好だが、全体としてテントがしっかりバランスよくたっていないチームもありました。テントを雨や強風の中で設営することもあります。どんな状況でもテントを素早く、きちんと立てられるように訓練しておいてください。ペグの打ち込み加減について注意してください。打ち込み不足はよく指摘されることですが、逆に打ち込みすぎてヘッドの部分が見えないチームもありました。ペグが抜けなくなる危険性があります。また、ポールが折れてしまい、困っているチームがありました。普段の山行でもありうることです。スキーストックを10cmほどに切ったものが、エマージェンシーパイプとして使えます。参考にしてみてください。

(2) 炊事 (5点=5項目×1点 評価は0.5刻み)

①審査項目

- ア) 調理の手順、手際の良さ
- イ) 火器使用時の手袋の使用、コンロ・コップフェルへの注意 (手放さない)
- ウ) コンロの安定 (コンロ台)、風防板の有無と扱い方
- エ) 食糧計画との一致、食料の区分け
- オ) ゴミを出さない工夫、調理シート (繰り返し使える適当なサイズのもの)

②講評

昨年と同様、今回も雨によりテント内での炊事となりました。テント内の炊事はより安全に気を配った注意が必要です。コンロはコンロ台などで安定させて、調理中は軍手をはめた手で必ず誰かがコップフェルを支えてください。

6. 気象 (7点)

(1) 天気図作成 (5点)

①審査項目

気象通報を聞き取り、放送を含め40分で天気図を正しく作成できるか。

②講評

実際の山行中に天気図を描く機会は最近では減りましたが、ラジオ等から得られる天気予報に関して、よりの確な判断をするために、ぜひ天気図を描いてもらいたいものです。漁業気象までは枠内に直接プロットしましょう。東経130度・140度、北緯30度・40度のラインを抑えていれば、容易に通報のスピードについていけるはずです。

何枚も天気図を書いているうちに、東北東、西南西など、反射的に風向を引けるようにもなるはずですが、ぜひ、天気図を描く習慣をつけてください。

(2) 設問 (2点)

①審査項目

基本的な気象知識や県内の山岳気象について理解をしているか。

②講評

気象に関する知識は、安全で快適な登山を行うために大切なものです。常に気象に興味をもち、学習を続けてください。

7. 知識 (5点)

①審査項目

山域についての知識、登山用語、地図用語などを理解しているか。

②講評

事前学習の文章については、比較的よく学習してあると思われました。自分たちが目指す山域についてガイドブック等で幅広く研究しておくことは、山を深く楽しめるということにもつながります。競技に関係なく日頃から実践しましょう。

地図記号については、名称を正確に覚えるようにしましょう。大体こんなものの記号だったという解答が昨年
に続き今年も多く見られました。

8. 計画・記録 (10点)

(1) 計画書 (6点)

① 審査項目

- ア) 学校・パーティ名 イ) 緊急連絡先 (夜間) ウ) メンバーの生年月日 エ) 保護者名・連絡先
オ) 予備食の記載 カ) 医薬品リスト (風邪薬・使用法) キ) 日程表 (出発地からの記載)
ク) 手書き概念図 (方角、主要地点、ルートの記載) ケ) 断面図 (標高、水平距離、主要地点の記載)

② 講評

計画書には必要な情報が確実に載っていることが重要です。全国高等学校登山大会審査基準を参考にしてください。例えば、留守本部では夜間の連絡先、日程では集合地 (学校や駅など) から帰着時までの行程など確実に記載してください。また、予備食は共同携行品として、品名・分量・分担の記載が必要です。他校と計画書の交換などを通じ、よりよいものを作成してください。

(2) 基準記録用紙 (4点=4地点×2項目×0.5点)

① 審査項目

ルート上の4地点 (奥の院跡、飯縄山頂、瑠璃山頂、戸隠キャンプ場) において、地点、到着時刻、出発時刻、天候、体調 (各人)、主な動植物、記事 (地形・展望・出来事等) について、必要な記述がなされているか。

② 講評

地点の欄にフラッグのポイントを記入しているチームが何校もありました。地点の欄には地図上または標識・プレートの地名を記入するようにしてください。また、地点名に「ゴール」・「スタート」と記入するのは不適切です。地名 (飯綱東高原オートキャンプ場・戸隠キャンプ場) を記入しましょう。広域にわたる名称 (スキー場、飯綱など) を地点名に使用することも不適切と考えますので記入に当たっては注意してください。地点に関しては、休憩地で出発時刻の記入がないものもありました。その他、主な動植物、体調などについて一切記入のないチームもありました。漢字の間違いについても気をつけてください。

よりよい登山を目指す上で、登山の記録を残していくことは欠かせません。日頃の登山でも、地点名、時刻、メンバーの体調、動植物や気づいた点などの事項や、ちょっとした感想を常に記入する習慣をつけましょう。

【終わりに】

今回の体力審査では、競技中の重量調整が複数のチームでありました。競技としての性質と公正さを考え、審査員会では該当チームの体力点を0点とする対応を取りました。しかし、過去にはこのようなケースを想定した防止策が講じられており、今回それを落としてしまったのは審査員会として至らなかったと反省せねばなりません。審査に当たっては、さまざまな状況を考慮して計画を立てねばならないとの思いを改めて感じました。なお、該当チームにおいては、審査委員の問い合わせに対して、素直に行為を認めてくれたことを嬉しく思います。

選手の皆さん、3日間お疲れ様でした。今大会には、男子Aチームに14チーム、女子Aチームには4チームが出場し、オブザーバーも含めた参加人数は約120名でした。大会を通じて、他校と情報交換をしたり、交流を深めたりすることもできたのではないかと思います。この大会での経験は、各校での今後の活動に活かして欲しいと思います。そして、登山の魅力を周囲に伝え、一人でも多くの山の仲間を増やして行ってください。

(文責 審査委員長 酒井 知之)